

# 長野県競技力向上基本計画



令和3年7月改定

長野県競技力向上対策本部

# 目 次

はじめに ～ 長野県競技力向上基本計画改定の趣旨 ～

## 第1章 基本的な考え方

- 1 基本計画の位置付け
- 2 基本計画の対象期間と目標
- 3 基本計画の見直し

## 第2章 長野県の競技スポーツの現状

- 1 長野県の競技力の現状
  - (1) 国民体育大会の成績
  - (2) 全国中学校・全国高等学校体育大会における入賞者数の推移
  - (3) 本県出身のオリンピック出場選手数及びメダリスト
- 2 ジュニア世代の現状
  - (1) 長野県の運動部活動加入状況の推移
  - (2) 本県の児童生徒の体力・運動能力の現状について
- 3 公益財団法人日本スポーツ協会公認資格の取得状況
- 4 現状分析と課題
  - (1) 本県競技力の現状
  - (2) 目標実現に向けた課題

## 第3章 競技力向上に向けた具体的な取組み

- 1 競技力向上のために取り組む4つの柱
- 2 競技力向上対策本部が主体的となって行う具体的な取組み
  - (1) 組織体制の整備・確立
  - (2) 指導体制の確立
  - (3) 選手の発掘・育成・強化・確保
  - (4) 競技力向上のための環境整備
- 3 各期間における主な取組み

(参考)

「長野県競技力向上対策本部」について

## はじめに ～ 長野県競技力向上基本計画改定の趣旨 ～

スポーツには、私たちに夢や感動を与え、明日への活力をもたらす大きな力がある。とりわけ国際舞台や国内トップレベルの競技大会での長野県関係選手の活躍は、多くの県民に大きな喜びや誇りを与えるとともに、郷土を愛する意識や一体感を飛躍的に高めてくれる。

本県で開催する予定の第 82 回国民スポーツ大会（以下「大会」という。）に向けた競技力の向上と大会終了後も持続・定着できる競技スポーツの振興を目指し、総合的な対策を計画的かつ着実に推進するため、2018 年 6 月、県、市町村、関係団体等の幅広い主体の参画を得て「長野県競技力向上対策本部」を設立した。

今後、有望なジュニア選手の発掘・育成・確保、高い指導力を持つ指導者の養成・確保、選手へのサポート体制の充実など、競技力向上のための具体的な取組みを推進する「長野県競技力向上基本計画」を 2019 年 3 月に策定した。

その後、新型コロナウイルス感染症の影響により、大会の開催が 1 年延期されるとともに、令和 4 年度からは「充実期」を迎えるため、これまでの実績を反映した施策を展開していくため、一部見直しをして改定することとした。

「やまびこ国体」から 50 年目、「長野冬季オリンピック・パラリンピック」から 30 年目という節目の年に開催されることとなった大会において、天皇杯・皇后杯の獲得を目指すとともに、開催基本方針の「スポーツを通じた元気な長野県づくり」にも寄与すべく、この基本計画をもとに各種取組みを推進していくこととする。

# 第 1 章

## 基本的な考え方

## 第1章 基本的な考え方

### 1 基本計画の位置付け

この計画は、2028年に開催される予定の第82回国民スポーツ大会における目標の達成と大会終了後も持続可能な本県の競技スポーツの振興を目指し、今後の具体的な取組みを示した指針とする。

### 2 基本計画の対象期間と目標

2028年の第82回国民スポーツ大会では、「天皇杯及び皇后杯の獲得」を目標とする。

この計画は、次の4つの期間に区分し、期間ごとに目標を定め、評価・検証を行いながら、計画的に競技力向上事業に取り組む。

期 間		目 標	
		男女総合 (天皇杯順位)	女子総合 (皇后杯順位)
育成期	2019年～2021年	12位以内	10位以内
充実期	2022年～2025年	10位以内	9位以内
躍進期	2026年	8位以内	8位以内
	2027年	5位以内	5位以内
	2028年	天皇杯獲得	皇后杯獲得
定着期	2029年以降	10位以内	10位以内

### 3 基本計画の見直し

この計画は、競技力向上対策の進捗状況や目標の達成度、国民スポーツ大会の改革等の外部環境の変化等を踏まえ、適宜見直しを行う。

## 第2章

### 長野県の競技スポーツの現状

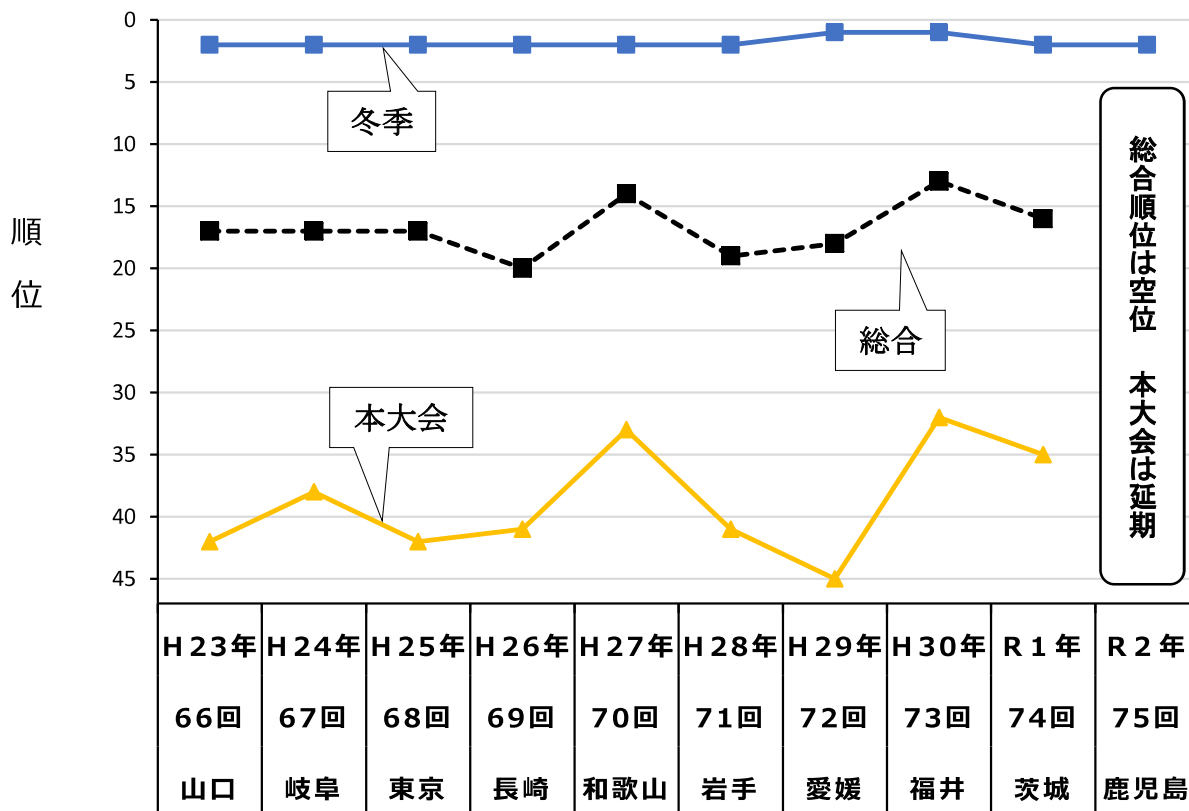
# 1 長野県の競技力の現状

## (1) 国民体育大会の成績

### ① 本県の男女総合及び季別種別の順位推移

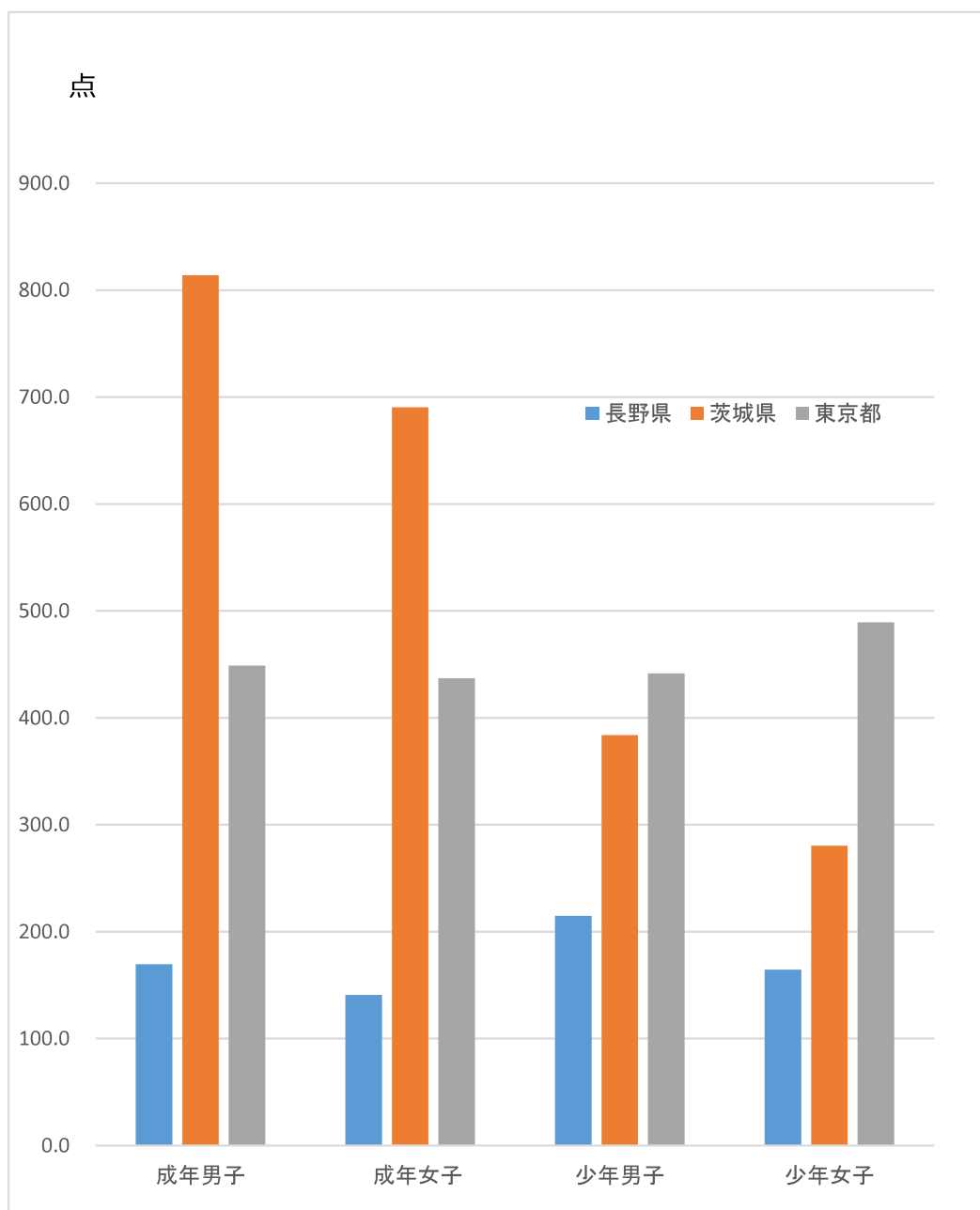
開催地	山口	岐阜	東京	長崎	和歌山	岩手	愛媛	福井	茨城	鹿児島
回	66回	67回	68回	69回	70回	71回	72回	73回	74回	75回
開催年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年
<b>男女総合順位</b>	<b>17</b>	<b>17</b>	<b>17</b>	<b>20</b>	<b>14</b>	<b>19</b>	<b>18</b>	<b>13</b>	<b>16</b>	空位
<b>冬季大会順位</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>2</b>
成年男子	2	3	2	2	2	2	1	2	3	2
成年女子	2	3	2	2	1	1	1	1	2	1
少年男子	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
少年女子	2	1	2	2	2	1	1	1	1	2
<b>本大会順位</b>	<b>42</b>	<b>38</b>	<b>42</b>	<b>41</b>	<b>33</b>	<b>41</b>	<b>45</b>	<b>32</b>	<b>35</b>	延期
成年男子	34	32	25	23	33	34	42	41	38	
成年女子	43	39	43	37	21	34	38	21	32	
少年男子	42	41	46	45	37	41	46	34	40	
少年女子	40	32	35	46	34	31	34	22	21	

国民体育大会（第66～75回）における長野県（総合・本大会・冬季大会）の順位推移



②第74回国体における長野県と上位県との種別競技得点比較（第75回大会は延期）

	成年男子	成年女子	少年男子	少年女子	合計得点
長野県	169.5	141.0	215.0	164.5	690.0
茨城県	814.0	690.5	384.0	280.5	2169.0
東京都	449.0	437.0	441.5	489.5	1817.0

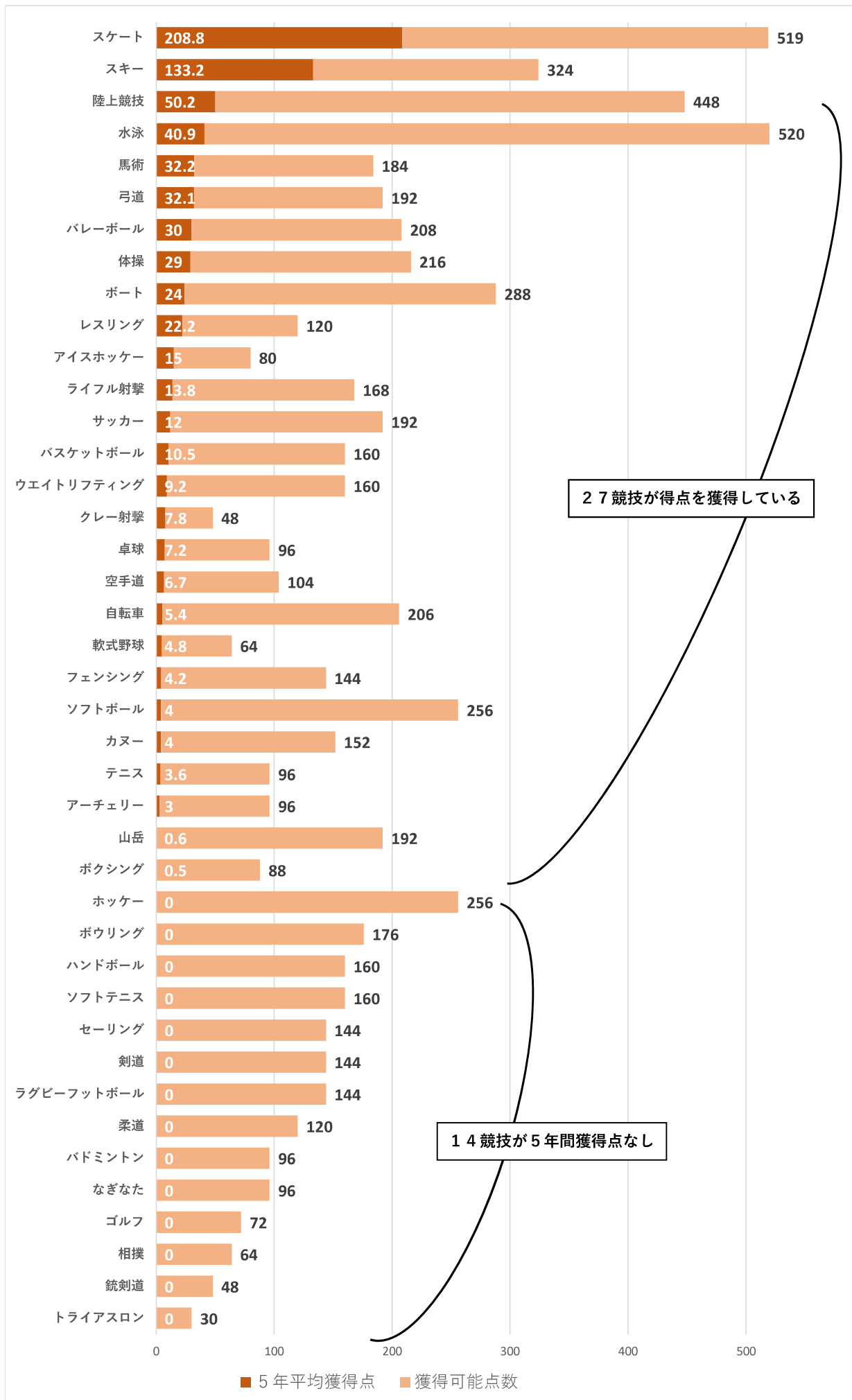




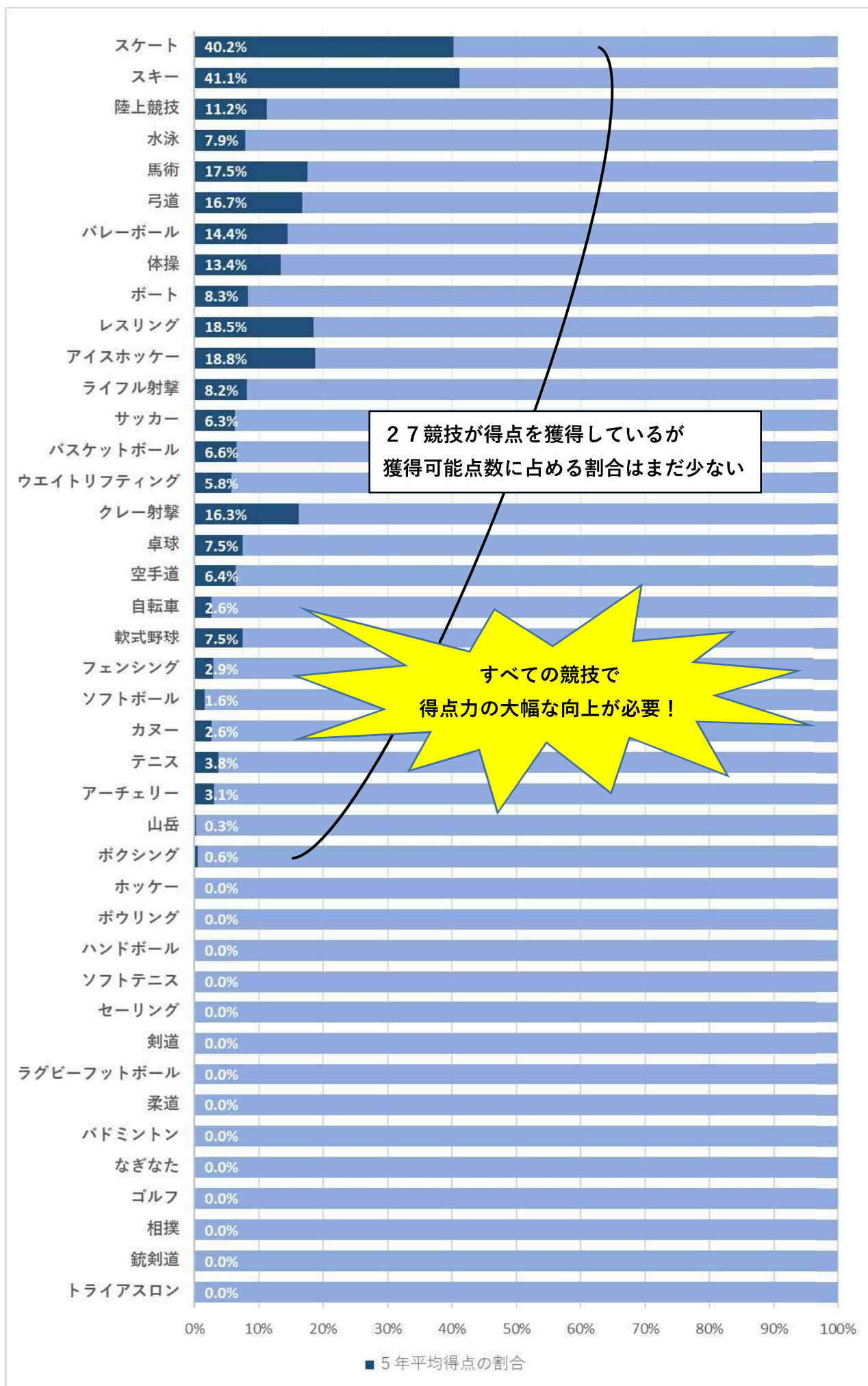
③本県の国民体育大会における競技別得点の推移（70～75回）

季別	男女総合（天皇杯）							5年平均 (70～74回)	天皇杯 獲得県 5年平均	本県との 得点差	
	競 技 名	第 75 回	第 74 回	第 73 回	第 72 回	第 71 回	第 70 回				
冬季大会	スケート	193.0	185.0	214.0	265.0	195.0	185.0	208.8	75.2	133.6	
	アイスホッケー	15.0	5.0	20.0	15.0	30.0	5.0	15.0	16.0	-1.0	
	スキー	128.0	148.5	173.5	120.0	84.0	139.5	133.1	15.0	118.1	
	参加得点	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	0.0	
	競技得点	336.0	338.5	407.5	400.0	309.0	329.5	356.9	106.2	250.7	
	小 計	366.0	368.5	437.5	430.0	339.0	359.5	386.9	136.2	250.7	
	冬季大会終了時順位	2	2	1	1	2	2	1.6	9.2		
本大会	陸上競技	本 大 会 は 延 期	44.0	33.5	55.0	66.5	52.0	50.2	81.6	-31.4	
	水泳		47.0	50.5	34.0	35.0	37.0	40.7	177.7	-137.0	
	サッカー			20.0			40.0	12.0	54.4	-42.4	
	テニス						18.0	3.6	33.6	-30.0	
	ボート		13.0	28.0	38.0	30.0	11.0	24.0	116.9	-92.9	
	ホッケー									88.0	-88.0
	ボクシング				2.5				0.5	31.3	-30.8
	バレーボール			30.0	47.5		30.0	42.5	30.0	71.9	-41.9
	体操			45.0	30.0	20.0	20.0	30.0	29.0	105.6	-76.6
	バスケットボール			12.5	27.5			12.5	10.5	40.5	-30.0
	レスリング			30.0	37.0	5.0	23.5	15.5	22.2	44.5	-22.3
	セーリング									51.0	-51.0
	ウェイトリフティング			14.0	3.0	8.0		21.0	9.2	68.8	-59.6
	ハンドボール									44.5	-44.5
	自転車			7.0	13.0			7.0	5.4	76.2	-70.8
	ソフトテニス									43.0	-43.0
	卓球					21.0	7.5	7.5	7.2	28.8	-21.6
	軟式野球			24.0					4.8	19.2	-14.4
	相撲									7.0	-7.0
	馬術			11.0	23.0	33.0	35.5	58.5	32.2	77.4	-45.2
	フェンシング				3.0	3.0		15.0	4.2	53.4	-49.2
	柔道									53.1	-53.1
	ソフトボール				20.0				4.0	52.8	-48.8
	バドミントン									25.2	-25.2
	弓道			18.0	58.5	12.0	24.0	48.0	32.1	13.2	18.9
	ライフル射撃			15.0	9.0	15.0	15.0	15.0	13.8	41.0	-27.2
	剣道									95.9	-95.9
	ラグビーフットボール									58.8	-58.8
	山岳			3.0					0.6	60.0	-59.4
	カヌー						7.0	13.0	4.0	75.0	-71.0
	アーチェリー			5.0	15.0				4.0	36.0	-32.0
	空手道				5.0	13.5	7.5	2.5	5.7	74.7	-69.0
	銃剣道									1.2	-1.2
クレー射撃		33.0				6.0	7.8	23.4	-15.6		
なぎなた								61.8	-61.8		
ボウリング								35.0	-35.0		
ゴルフ								20.1	-20.1		
トライアスロン								9.2	-9.2		
参加得点		370.0	370.0	370.0	370.0	370.0	370.0	370.0	370.0	0.0	
競技得点		351.5	426.0	257.5	332.5	421.0	357.7	2,051.7	-1,694.0		
小 計		721.5	796.0	627.5	702.5	791.0	727.7	2,421.7	-1,694.0		
順位		35	32	45	41	33	37.2	1.0			
総合	参加点	空 位	400.0	400.0	400.0	400.0	400.0	400.0	400.0	0.0	
	競技得点		690.0	833.5	657.5	641.5	750.5	714.6	2,157.9	-1,443.3	
	合計得点		1090.0	1233.5	1057.5	1,041.5	1,150.5	1,114.6	2,557.9	-1,443.3	
	順位		16	13	18	19	14	16.0	1.0		

#### ④本県の競技別5年平均獲得点と獲得可能点数



⑤本県の競技別獲得可能得点に占める5年平均得点の割合



⑥本県の第40回北信越国体（R1県開催）における競技別獲得数状況（第41回は中止）

※本大会ストレート競技・種目、ウエイトリフティング競技、馬術自馬競技を除く

No.	競技名	北信越からの出場数	各 県 の 獲 得 数				
			長野	新潟	富山	石川	福井
1	水泳	2	0	0	0	2	0
	AS	3	1	0	1	0	1
2	サッカー	6	0	2	1	2	1
3	テニス	6	0	2	1	1	2
4	ボート	21	2	4	4	0	11
5	ホッケー	4	0	0	1	0	3
6	ボクシング	5	0	2	0	0	3
7	バレーボール	7	3	0	2	1	1
8	体操	18	3	5	2	3	5
9	バスケットボール	8	2	2	1	3	0
10	ウエイトリフティング	7	1	0	2	2	2
11	ハンドボール	6	0	0	2	2	2
12	ソフトテニス	6	0	2	2	2	0
13	卓球	7	1	1	0	3	2
14	軟式野球	3	1	0	0	1	1
15	馬術	25	9	3	3	4	6
16	フェンシング	4	0	0	2	0	2
17	柔道	2	0	0	0	1	1
18	ソフトボール	4	0	1	0	0	3
19	バドミントン	7	1	0	3	1	2
20	弓道	9	3	2	1	3	0
21	ライフル射撃	25	3	1	9	5	7
22	剣道	3	0	1	0	1	1
23	ラグビーフットボール	3	0	0	0	2	1
24	山岳	5	1	1	0	0	3
25	カヌー	27	2	7	6	6	6
26	アーチェリー	7	2	1	3	0	1
27	空手道	10	3	2	0	3	2
28	銃剣道	0	0	0	0	0	0
29	クレー射撃	3	1	0	1	0	1
30	なぎなた	3	0	1	0	1	1
31	ボウリング	9	0	1	3	3	2
32	ゴルフ	3	0	1	0	1	1
合計		258	39	42	50	53	74
県別獲得数割合 (%)			15.1	16.3	19.4	20.5	28.7
1位通過数		124	20	18	17	31	38
2位通過数		72	3	16	23	10	20
3位通過数		25	4	5	4	5	7
4位通過数		6	3	0	1	1	1
合 計		227	30	39	45	47	66
本大会 競技得点			351.5	318.5	373.5	404.5	920.5

(2) 全国中学校・全国高等学校体育大会における入賞者数の推移

①夏季大会

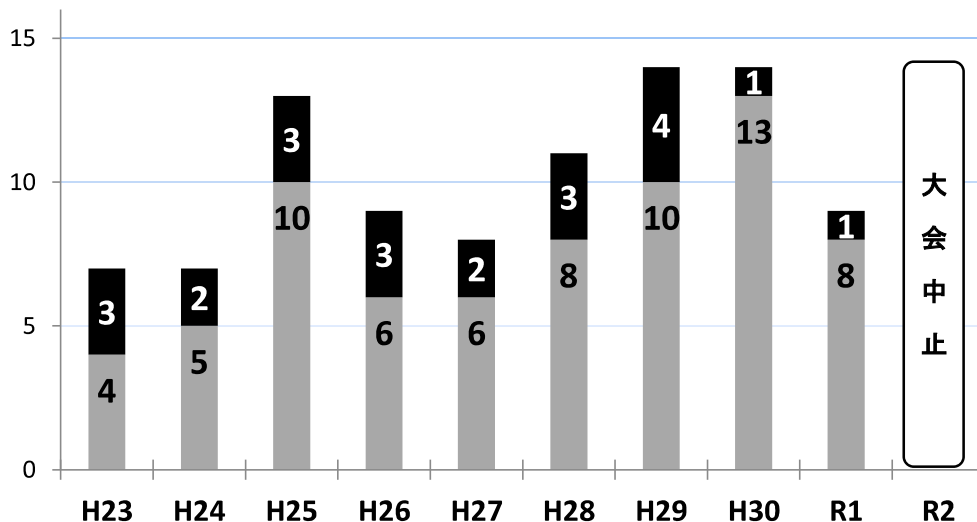
＜全国中学校体育大会における入賞者数（8位以内）の状況（直近10年間）＞

年 度	平成23		平成24		平成25		平成26		平成27		平成28		平成29		平成30		令和1		令和2		
	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	
陸上競技（駅伝）	1				4		3	1			1		3	1	3	1	4				
水泳競技	1		2		1		1		1				1		1						
柔 道	1		2		4		2		4		3	1	3	1	4		4				
剣 道																					
相 撲	1																				
体 操							■	1	1	3	1	3	1	5	■						
新体操		1	1	1	1	1						■	1	■		■	1				
バレーボール	/	2	/	1	/	1	/	1	/	1	/		/		/		/		/		
バスケットボール	/	■	/		/	■	/	■	/		/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	
サッカー	/		/		/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	
ソフトテニス		■		■		■	■	■		■	1	■		■	■						
卓 球		■		■					■	■		■		■		■		■			
ハンドボール	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	
バドミントン		■		■		■		■		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
軟式野球	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	
ソフトボール	/	■	/	■	/	1	/	1	/	■	/	1	/		/	■	/		/		
合 計	4	3	5	2	10	3	6	3	6	2	8	3	10	4	13	1	8	1			
	7		7		13		9		8		11		14		14		9				

大会中止

■: 全国大会不出場(北信越ブロック大会敗退)

■ 夏季競技(個人) ■ 夏季競技(団体)

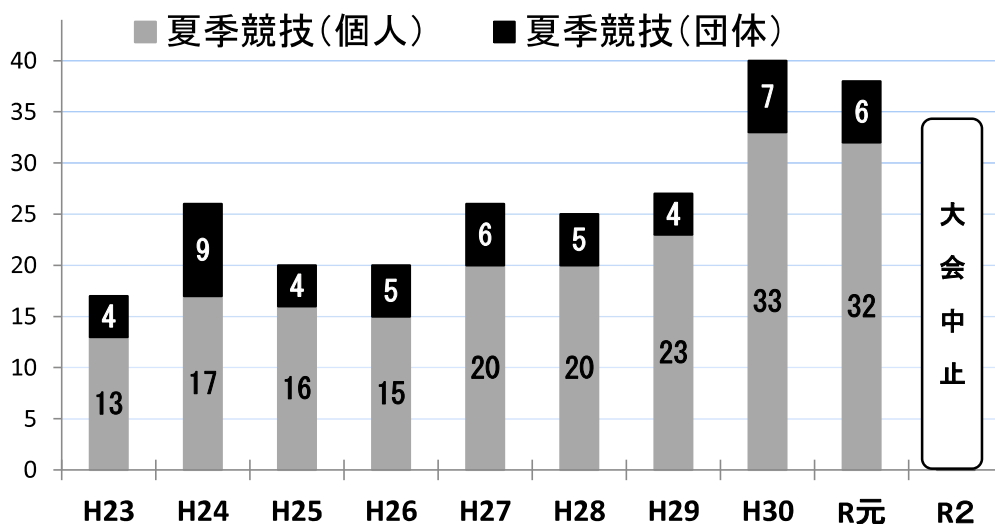


大会中止

<全国高等学校総合体育大会入賞者（8位以内）の状況（直近10年間）>

年度	平成23		平成24		平成25		平成26		平成27		平成28		平成29		平成30		令和元		令和2	
	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体
陸上競技（駅伝）	4		5		5		2		3		1		8		8	2	4	1		
柔道	3		2	1	2		2		1	1					1		1			
剣道													1							
ソフトテニス																				
テニス			3	2	1				1	1	2	1	1	1						
バスケットボール				1											1					
バレーボール		1							1	1								1		
ハンドボール																				
ソフトボール																				
卓球																				
バドミントン																				
体操															7	1	8	1		
（新体操）	3				2	1	3	1	3	1	7	1	4	1	3	1	2	1		
相撲											1									
弓道			1		1		1								1					
水泳			2	1	1		1		1	1				2		4				
サッカー																				
ラグビーフットボール																				
登山				1		1														
レスリング	1						2		1	1		3		5		3				
漕艇			1		1		1				1		1		1	1	1			
ウエイトリフティング									8	1			3				3			
自転車															1		1			
フェンシング	1		1		2	1	3												1	
空手道			1	2					1						1					
ボクシング																				
アーチェリー																				
なぎなた																				
カヌー																				
少林寺拳法													1							
定通	1	3	1	1	1	1	1	3	1	2	6	1	2	1	4	1	5			
合計	13	4	17	9	16	4	15	5	20	6	20	5	23	4	33	7	32	6		
		17		26		20		20		26		25		27		40		38		

大会中止



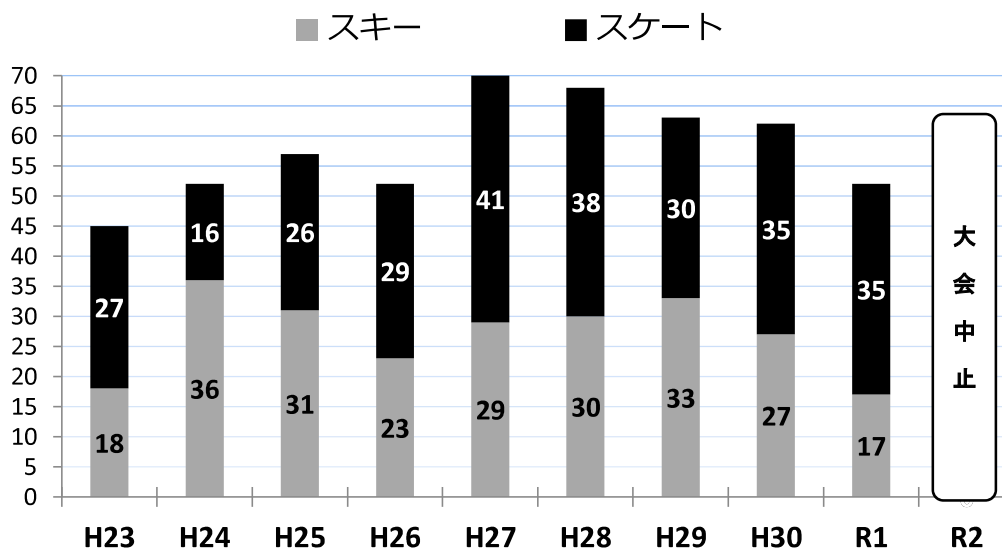
大会中止

（全国高等学校総合体育大会及び全国高等学校定時制通信制体育大会の合計）

## ②冬季大会

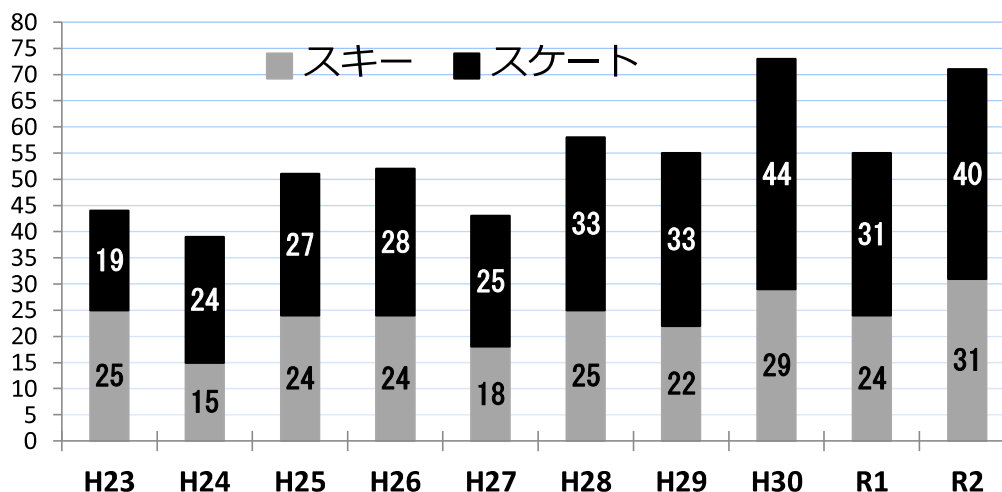
＜全国中学校体育大会における入賞者（8位以内）の状況（直近10年間）＞

年度	平成23		平成24		平成25		平成26		平成27		平成28		平成29		平成30		令和1		令和2	
区分	個	団	個	団	個	団	個	団	個	団	個	団	個	団	個	団	個	団	個	団
種目	人	体	人	体	人	体	人	体	人	体	人	体	人	体	人	体	人	体	人	体
スケート	スピード・フィギュア	21	5	12	3	20	6	23	6	34	7	29	9	23	7	28	7	28	7	大会中止
	アイスホッケー	/	1	/	1	/		/		/		/		/		/		/		
スキー	16	2	34	2	29	2	21	2	27	2	28	2	31	2	25	2	17	0		
合計	37	8	46	6	49	8	44	8	61	9	57	11	54	9	53	9	45	7		
	45		52		57		52		70		68		63		62		52			



＜全国高等学校総合体育大会入賞者（8位以内）の状況（直近10年間）＞

年度	平成23		平成24		平成25		平成26		平成27		平成28		平成29		平成30		令和元		令和2		
区分	個	団	個	団	個	団	個	団	個	団	個	団	個	団	個	団	個	団	個	団	
種目	人	体	人	体	人	体	人	体	人	体	人	体	人	体	人	体	人	体	人	体	
スケート	スピード・フィギュア	15	4	19	4	23	4	24	4	21	4	29	4	27	6	38	5	27	4	34	6
	アイスホッケー	/		/	1	/		/		/		/		/	1	/		/		/	
スキー	22	3	14	1	21	3	20	4	15	3	22	3	19	3	25	4	21	3	26	5	
合計	37	7	33	6	44	7	44	8	36	7	51	7	46	9	63	10	48	7	60	11	
	44		39		51		52		43		58		55		73		55		71		



(3) 本県出身のオリンピック出場選手数及びメダリスト

①夏季オリンピック

	出場種目	出場者数	メダリスト
シドニー (2000年)	陸上競技(2名)、ボート バレーボール	4名	
アテネ (2004年)	ボート	1名	
北京 (2008年)	陸上競技、バレーボール、カヌー 自転車、馬術、ボート	6名	銀メダル：塚原直貴(陸上競技)
ロンドン (2012年)	水泳、陸上競技、カヌー、馬術 ボート	5名	
リオデジャネイロ (2016年)	水泳、陸上競技(3名) カヌー(2名)、バドミントン	7名	銅メダル：箱山愛香(水泳) 銅メダル：荒井広宙(陸上競技) 銅メダル：奥原希望(バドミントン)
東京 (2021年)	陸上競技(2名)、カヌー、馬術 バドミントン、フェンシング	6名	

②冬季オリンピック

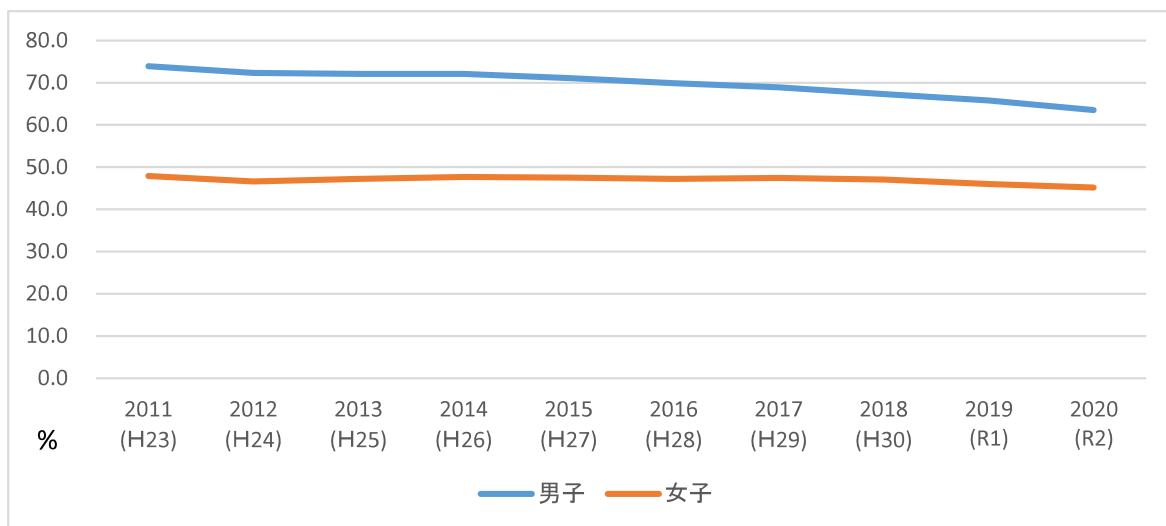
	出場種目	出場者数	メダリスト
ソルトレーク (2002年)	スケート(4名)、ショートトラック(3名) スキー(9名) リュージュ(2名)、スケルトン(2名)	20名	
トリノ (2006年)	スケート(5名)、ショートトラック(2名) スキー(6名) リュージュ(3名) スケルトン(2名)	18名	
バンクーバー (2010年)	スケート(3名)、ショートトラック(3名) スキー(7名)、リュージュ(2名) スケルトン(1名)、カーリング(1名)	17名	銀メダル：小平奈緒(スケート)
ソチ (2014年)	スケート(4名)、 ショートトラック(2名) スキー(7名)	13名	銅メダル：竹内 択(スキー) 銀メダル：渡部暁斗(スキー)
平昌 (2018年)	スケート(3名)、ショートトラック(3名) スキー(6名)、カーリング(3名)	15名	金・銀メダル：小平奈緒(スケート) 金メダル：菊池彩花(スケート) 銀メダル：渡部暁斗(スキー)



## 2 ジュニア世代の現状

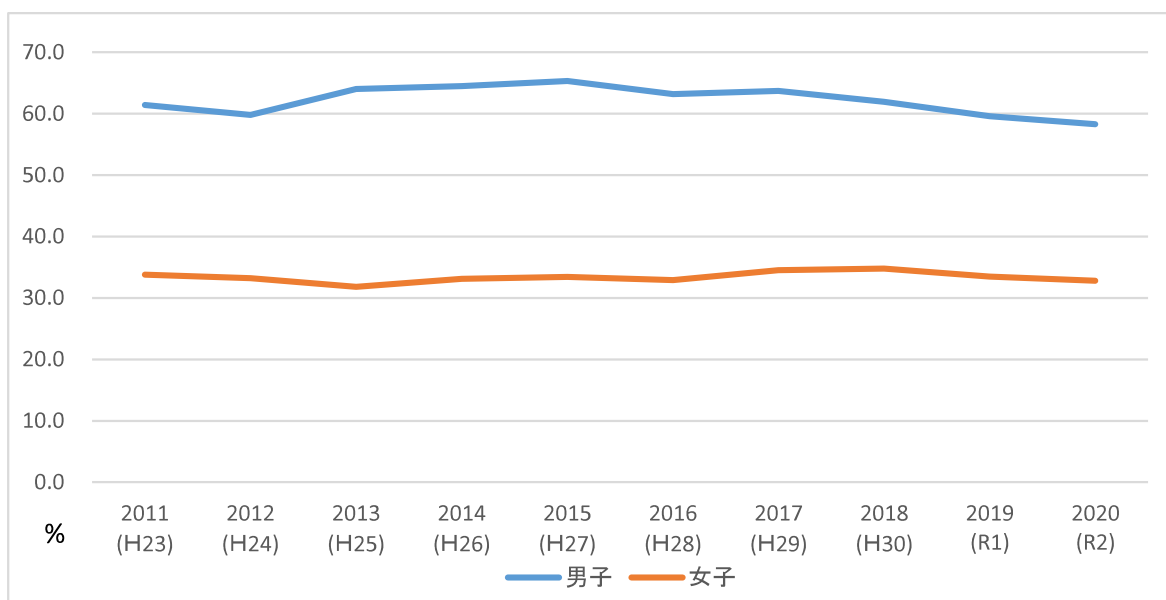
### (1)長野県の運動部活動加入状況の推移

#### ①中学生の部活動加入状況の推移（直近10年間）



	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)
男子	73.9	72.3	72.1	72.1	71.1	69.9	68.9	67.3	65.8	63.5
女子	47.9	46.6	47.2	47.7	47.5	47.2	47.5	47.1	46.0	45.2

#### ②高校生の部活動加入状況の推移（直近10年間）



	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)
男子	61.4	59.8	64.0	64.5	65.3	63.2	63.7	61.9	59.6	58.3
女子	33.8	33.2	31.8	33.1	33.4	32.9	34.5	34.8	33.5	32.8

## (2) 本県の児童生徒の体力・運動能力の現状について

### ① 令和元年度調査結果及び年度別推移（令和2年度は国による調査中止）

○本県と全国の体力合計点（平均）の一覧

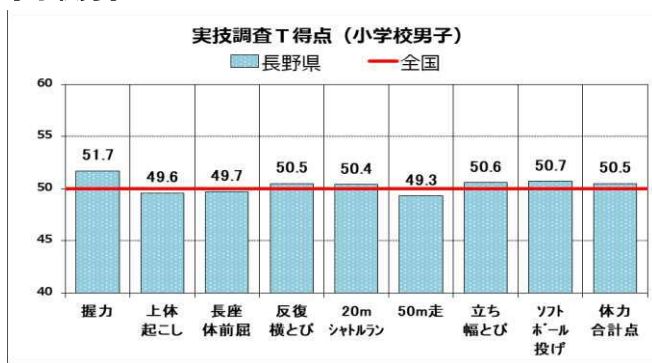
※網掛は全国平均を上回る

		26年度		27年度		28年度		29年度		30年度		令和元年度		
		(悉皆)	順位	(悉皆)	順位	(悉皆)	順位	(悉皆)	順位	(悉皆)	順位	(悉皆)	順位	全国と差引
小5男子	本県	53.84	22位	54.10	18位	54.20	17位	54.69	17位	54.64	19位	54.11	17位	0.50
	全国	53.91		53.80		53.92		54.16		54.21		53.61		
小5女子	本県	54.66	30位	55.40	23位	55.29	27位	55.69	25位	55.99	25位	55.84	21位	0.25
	全国	55.01		55.18		55.54		55.72		55.90		55.59		
中2男子	本県	42.11	20位	42.33	20位	42.39	23位	42.35	23位	43.14	16位	42.25	19位	0.69
	全国	41.63		41.89		42.13		41.96		42.18		41.56		
中2女子	本県	47.38	41位	48.83	26位	48.65	34位	49.04	38位	50.31	32位	49.51	33位	-0.52
	全国	48.55		49.08		49.56		49.80		50.43		50.03		
総合	本県	197.99	27位	200.66	19位	200.53	23位	201.77	23位	204.08	22位	201.71	23位	0.92
	全国	199.10		199.95		201.15		201.64		202.72		200.79		
総合差引		-1.11		0.71		-0.62		0.13		1.36		0.92		

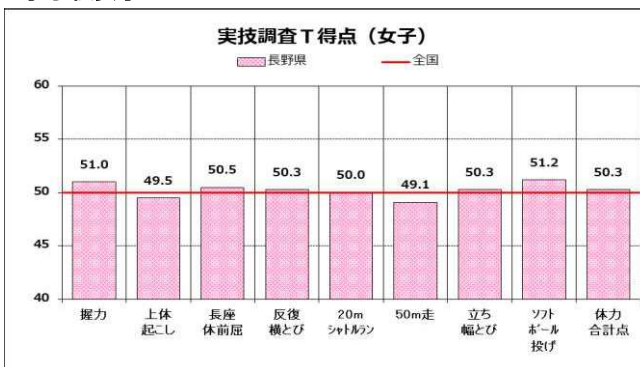
※ 体力合計点とは、小・中学校各8種目の記録を男女別に点数化(1~10点)した合計点(80点満点)

### ② 種目別T得点による全国比較

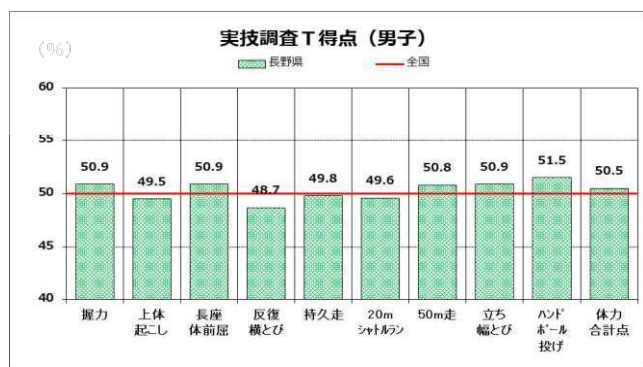
#### 小学校男子



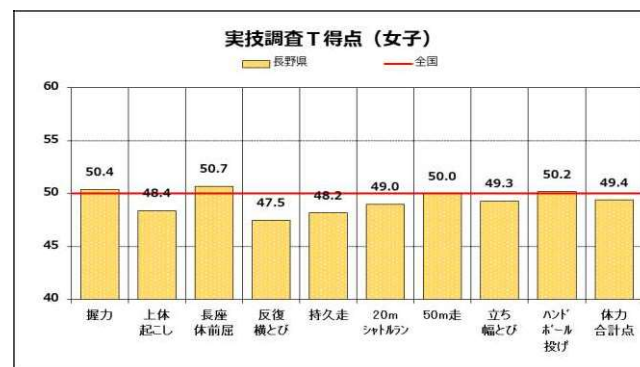
#### 小学校女子



#### 中学校男子



#### 中学校女子



\* T得点は、標準偏差を示す。

### 3 公益財団法人日本スポーツ協会公認資格の取得状況

#### ①競技別指導員資格取得者数

単位：人

競技名	競技別指導者資格 区分別登録者数							計	(参考)	
	コーチ					教師			H30 総数	H30から の増加数
	スタート	1	2	3	4	教師	上級			
スケート	0	15	0	17	4	0	0	36	33	3
アイスホッケー	0	16	0	0	0	0	0	16	19	-3
スキー	0	17	38	10	0	18	19	102	127	-25
陸上競技	0	85	2	38	5	0	0	130	83	47
水泳	0	60	5	44	9	83	17	218	242	-24
サッカー	0	901	0	139	57	0	0	1097	1028	69
テニス	0	69	15	5	1	6	0	96	102	-6
ボート	0	13	0	5	0	0	0	18	15	3
ホッケー	0	0	0	6	1	0	0	7	7	0
ボクシング	0	0	0	3	0	0	0	3	2	1
バレーボール	3	454	54	17	10	0	0	538	507	31
体操競技	0	0	0	7	0	0	0	7	8	-1
新体操	0	0	0	19	2	0	0	21	15	6
トランポリン	0	0	0	3	0	0	0	3	3	0
バスケットボール	0	227	0	14	3	0	0	244	169	75
レスリング	0	6	0	0	1	0	0	7	6	1
セーリング	0	0	1	4	0	0	0	5	5	0
ウエイトリフティング	0	1	0	1	0	0	0	2	3	-1
ハンドボール	0	34	0	6	0	0	0	40	40	0
自転車競技	0	4	0	18	0	0	0	22	18	4
ソフトテニス	0	64	5	6	0	0	0	75	79	-4
卓球	0	35	17	31	2	0	0	85	82	3
軟式野球	0	54	0	5	0	0	0	59	53	6
相撲	0	3	0	0	0	0	0	3	4	-1
馬術	0	4	0	9	0	0	0	13	12	1
フェンシング	0	14	0	6	0	0	0	20	10	10
柔道	0	5	0	12	0	0	0	17	17	0
ソフトボール	0	436	17	14	1	0	0	468	475	-7
バドミントン	0	82	5	7	1	0	0	95	96	-1
弓道	0	133	2	3	0	0	0	138	132	6
ライフル射撃	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0
剣道	0	23	6	0	0	0	0	29	25	4
ラグビーフットボール	0	7	0	7	0	0	0	14	11	3
山岳	0	46	26	0	1	0	0	73	78	-5
スポーツクライミング	0	13	4	0	0	0	0	17	10	7
カヌー	0	7	0	5	0	0	0	12	11	1
アーチェリー	0	19	0	0	0	0	0	19	18	1
空手道	0	53	5	14	1	0	0	73	79	-6
銃剣道	0	8	0	0	0	0	0	8	7	1
クレー射撃	0	7	0	0	0	0	0	7	3	4
なぎなた	0	22	8	3	1	0	0	34	33	1
ボウリング	0	16	0	1	0	0	0	17	24	-7
ゴルフ	0	6	0	0	0	0	0	6	6	0
トライアスロン	0	7	0	0	0	0	0	7	6	1
計	3	2966	210	480	100	107	36	3902	3704	198

※令和2年10月発表資料より

#### ②メディカル・コンディショニング系資格取得者数

	H28	H29	H30	R1	R2
スポーツドクター	108	111	115	114	112
スポーツデンティスト	3	5	7	9	11
アスレティックトレーナー	46	51	54	60	64
スポーツ栄養士	6	8	9	9	11

※令和2年10月発表資料より

## 4 現状分析と課題

### (1) 本県競技力の現状

#### ① 国民体育大会における天皇杯順位

本県の実業団は、お家芸である冬季大会競技（スケート・アイスホッケー・スキー）の輝かしい活躍により、直近5年間は10位台を維持してきた。しかしながら、本大会の直近5年平均順位は「37.2位」であり、冬季の「1.6位」を大幅に下げる結果となっている。

#### ② 天皇杯獲得のために必要となる得点（※参加点は除く）

直近5年間の本県平均点は「747.3点」であるが、そのうち「357点」は冬季大会の得点であり約半分を占めている。したがって天皇杯獲得には、本大会37競技の得点力向上が必須となる。本県の本大会平均点は「390.3点」であり、天皇杯を獲得した都道府県の平均点「2042.5点」とは「1700点」近い差があり、これは個人種目に換算すると210種目以上に優勝しなければならない差となっている。

#### ③ 競技ごとの得点および獲得可能点数に占める割合

獲得可能点数は、個人、団体の違いや種目数により、競技ごとに大幅に異なっている。種目の多いスケートや水泳は500点を超え、トライアスロンのように最大でも30点までの競技もあるため、今後の得点目標は競技によって異なる。また、充実期以降の目標達成には、まずは北信越国体を上位で通過することが大前提であり、競技の種目・種別ごとに戦力分析をし、具体的な得点目標の設定が必要である。

#### ④ 少年種別のターゲットエイジ

少子化に伴い、これまで野球やバレーボールのように日本ではメジャースポーツと言われてきた競技はもちろん、国体正式競技の競技人口減少は著しい。今後の少年種別ターゲットエイジである中学生の運動部活動加入率を見ると、男子の加入率がここ10年で10.4ポイントも減少している。好成績を収めている冬季競技でも同様の傾向があるため、充実期以降も少年種別の強化に直結するジュニアの強化対策が重要となる。

#### ⑤ 指導者および医科学関係者数

改定前の基本計画資料の資格取得者数と比較すると、総数は増えてきてはいるが、大幅に減少している競技もあり、選手を支援するに十分な人数の養成は出来ていない。特にアスレティックトレーナーを含む医科学関係者の養成は急務である。

## (2) 目標実現に向けた課題

天皇杯獲得という目標を達成するためには、少なくとも現在の冬季大会順位を維持しつつ、本大会 37 競技の一層の競技力向上が求められる。7 年後を見据えた競技団体ごとの戦力分析（強化計画・アセスメントシートの作成・更新）を行い、個別に効果的・効率的な強化と検証を行い、対策本部と情報共有を一層充実させ、競技力向上を強力に推進していく。

お家芸の冬季競技においても、スケート、アイスホッケーの競技人口の減少は著しく、すべての競技において、大会終了後の競技力定着のために、充実期以降も引き続きジュニアの育成に注力し、その流れを少年から成年への強化につなげたい。

また、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、ほぼすべての競技の資格取得講座や中央研修会が中止、または年度を越えた延期となり、予定していた指導者養成ができなかったため、取組みの強化が必要である。

競技力向上のために取り組む「4 つの柱」には、育成期の実績と現場の声を反映した具体性のある事業展開を目指す。

### 【 取組みの方向性 】

#### ① 組織体制の整備・確立

- ・競技団体の組織体制の強化と情報共有による連携を深める。
- ・PDCA サイクルによる検証を繰り返し、効果的な強化活動を推進する。

#### ② 指導体制の確立

- ・新たな形式の指導者養成講習等への対応を検討し、一層の指導者養成を推進する。
- ・強化体制の充実に向けて、国内トップレベルの指導者による研修を開催する。

#### ③ 選手の発掘・育成・強化・確保

- ・少年種別のターゲットエイジの重点的な強化と、その後の強化指定による支援を検討し、これまで以上の得点獲得を目指す。
- ・成年種別での得点を上げるため、県内定着を目指すふるさと選手や有力選手の確保に向けた雇用支援について、関係機関や民間企業と具体的検討を行う。

#### ④ 競技力向上のための環境整備

- ・ジュニアアスリート育成を中心に ICT 機器によるリモート指導を推進する。
- ・活動拠点構築により、多世代交流と地域連携による強化体制整備を推進する。
- ・県内全域をカバーする医科学ネットワークの構築を推進する。
- ・練習環境の整備・施設の優先利用による強化練習の一層の支援を行う。

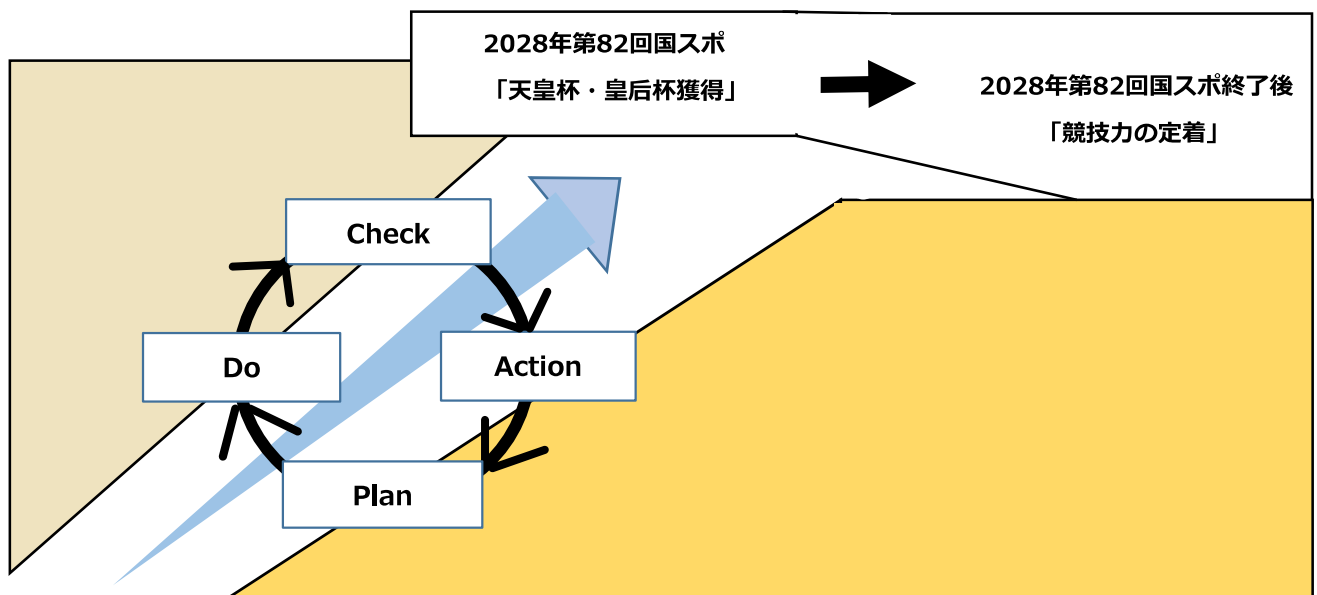
## 第3章

競技力向上に向けた具体的な取組み

## 1. 競技力向上のために取り組む4つの柱

2028年の第82回国民スポーツ大会における天皇杯及び皇后杯の獲得と、大会終了後の持続可能な競技スポーツの振興を目指し、本県の課題を踏まえた上で、取り組むべき競技力向上対策を、次の4つの柱に区分し、総合的かつ計画的に推進する。

区 分	本 県 の 課 題
(1) 組織体制の整備・確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの競技団体で会員数が減少傾向にある。</li> <li>・強化担当が運営担当を兼務するなど、組織体制が十分ではない。</li> <li>・関係団体と相互に協力し合うシステム作りが必要。</li> </ul>
(2) 指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀な選手を育成・強化するために、高い指導力を有する指導者の養成が必要。</li> <li>・指導者数が不足する競技では、即戦力となる指導者の確保が必要。</li> </ul>
(3) 選手の発掘・育成・強化・確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技人口の少ない競技は、選手の発掘につながる早急な取組みが必要。</li> <li>・幼少期からスポーツにふれる機会を提供するなど、競技人口を増やすための方策が必要。</li> <li>・優秀な選手が、県内にとどまるような対策が必要。</li> </ul>
(4) 競技力向上のための環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や運動部活動と連携して強化していくためのシステム構築が必要。</li> <li>・選手強化に必須でありながら、練習施設が確保できなかったり、高額のため調達が困難な競技用具等がある。</li> <li>・選手のパフォーマンス向上につながるスポーツ医・科学サポート体制のさらなる充実が必要。</li> </ul>



## 2. 競技力向上対策本部が主体となって行う具体的な取組み

### (1) 組織体制の整備・確立

---

#### (ア) 総合的な推進体制の構築

競技力向上対策本部において、本部会議、強化対策委員会、専門委員会（競技・医科学）等を運営して、競技力向上対策事業の企画・立案・進捗管理・評価等を行いながら、総合的・計画的に事業を推進する。

#### (イ) 競技団体の組織マネジメント力の強化のための支援

競技団体が、強化活動に集中して取り組むことができるよう、機能的な組織体制の整備や、組織マネジメント力の強化を支援する。

#### (ウ) 競技団体の強化計画の策定支援及び定期的な事業評価

競技団体が策定する強化計画（長期計画及び年間計画）の支援を行うとともに、計画に基づき行う強化活動について、成果・課題等の分析を支援する。

#### (エ) 競技団体間と関係団体との連携強化のための支援

競技団体間や関係団体との連携による強化活動を支援する。

#### (オ) コンプライアンス徹底のための支援

競技団体のコンプライアンス徹底のための研修会等を開催する。





## (2) 指導体制の確立

---

### (ア) 指導者の養成及び資質向上

- ① 指導者の中央研修会等への派遣支援  
最新の指導法や最先端の情報を習得するため、競技団体が推薦する指導者の中央競技団体等研修会への派遣を支援する。
- ② 国内外のトップレベル指導者による研修会の開催  
競技団体への助言や県内指導者が最新の指導方法を習得するため、国内外のトップレベルの指導者を招聘した研修会を開催する。
- ③ 公認指導者資格の取得促進のための支援  
国スポ監督候補者の安定的な確保を図るため、監督基準に基づいた公認資格取得等に要する講座の受講を支援する。
- ④ 競技の枠を超えた指導者の交流促進  
指導者が、競技の枠を超えた情報交換や技術、戦術、トレーニング方法等を共有するための交流会等を開催する。
- ⑤ 強化スタッフの連携支援  
競技団体が、ジュニア期(小・中・高)から成年までのすべての強化スタッフを一堂に会して取り組む強化活動(研修会の開催等)を支援する。
- ⑥ 一貫指導体制の確立のための支援  
競技団体が作成した選手育成プログラムに基づいた一貫指導体制の確立のため、競技団体が行う指導者研修会等の開催を支援する。
- ⑦ プロスポーツチーム等との連携  
県内のプロスポーツチーム等と連携した指導者講習会等を開催する。

### (イ) 指導者の確保

- ① 教職員等を目指す指導者の確保  
全国の優れた指導力を有する人材の中から、本県において教職員等を目指す者の情報を集め、関係機関と連携して、確保に努める。
- ② 指導者の雇用の促進  
全国から優秀な指導者を確保するため、地方自治体や民間企業等に対し、即戦力となり得る人材の雇用促進の働きかけを行う。
- ③ スポーツ国際交流員(S E A)の活用の検討  
国際レベルの指導力を選手の育成・強化に活かすため、関係機関と連携して、J E TプログラムによるS E Aの活用を検討する。

## (ウ) 指導者の活動や指導環境の整備

### ① 強化拠点地域での指導強化

競技団体が設定する強化拠点地域において、関係機関と連携して、教職員等を含め高い専門的指導力を有する人材の活用を促進する。

### ② 強化指定コーチの認定

競技団体の推薦により、より高い意識と使命感を持って指導実践ができる指導者を「強化指定コーチ」とする認定制度を創設し、その活動を支援する。

### ③ アドバイザリーコーチの委嘱

競技団体の推薦により、何度も全国大会入賞に導くなど高い指導実績を有する県内外の指導者を「アドバイザリーコーチ」として委嘱し、トップレベルの指導法や情報を県内指導者に提供する活動を支援する。

### ④ 指導者が活動しやすい環境づくり

指導者が競技力向上のための研修会や合宿・大会等に参加しやすくなるよう、関係機関等に働きかけを行う。

### (3) 選手の発掘・育成・強化・確保

---

#### (ア) 少年種別選手の発掘・育成・強化

① ジュニアアスリートの発掘・育成

将来性のあるジュニアアスリートを発掘し、様々な運動体験などのプログラムを通じて、2028年の国スポをはじめ、将来、世界の舞台で活躍できるスポーツ人材を育成する。

② 強化活動への支援

競技団体が行う練習会や合宿等の強化活動を支援する。

③ 強化ジュニアクラブ等の指定と活動の支援

競技団体の推薦により、有望なジュニア選手を継続して多数輩出しているジュニアスポーツクラブ等を強化指定し、練習会や合宿等の強化活動を支援する。

④ 強化指定選手の指定と活動の支援

競技団体の推薦により、2028年の国スポに少年種別年代となる有望な選手（ターゲットエイジ）を「強化指定選手」として指定し、競技団体が行う強化活動を支援する。

⑤ 適性種目と出会うための体験会の開催

競技人口が少ない種目等を対象に、個々の持つ適性（潜在能力）を再発見し、より高い競技パフォーマンスが期待できる競技・種目へ導くための体験会（トライアウト）を実施する。

#### (イ) 成年種別選手の育成・強化・確保

① 成年種別選手・チーム等の強化指定と活動の支援

競技団体の推薦により、2028年の国スポ活躍が期待できる選手・クラブチーム・企業チーム・大学運動部等を強化指定し、競技団体等が行う強化活動を支援する。

② ふるさと選手の活動支援

2028年の国スポで活躍が期待できる「ふるさと選手」について、競技団体等が行う強化活動を支援する。

③ 女性アスリート支援

女性アスリートが直面しやすい特有の課題解決のために、専門家による研修会や相談会などを開催し、より良い環境で女性アスリートが競技の継続ができるよう支援する。

④ 教職員等を目指すアスリートの確保

全国の優れた競技力を有するアスリートの中から、本県において教職員等を目指す者の情報を集め、関係機関と連携して、確保に努める。

⑤ 長野県内の定着を希望するアスリートの確保

本県出身選手や長野県内での競技継続を希望するアスリートが安心して競技に専念できる環境を整備するため、引退後に指導者として次世代選手強化に携わる県内スポーツの好循環を目指し、長野県アスリート就職支援事業の活用や自治体への働き掛け、民間企業の雇用支援等の検討を行う。

**(ウ) 競技人口の拡大**

① 幼少期のスポーツ体験支援

子どもたちの体力の向上を図るとともに競技スポーツの魅力を伝えるために、県内のプロスポーツチームや競技団体がタイアップしたスポーツ体験教室等を開催し、幼少期からさまざまなスポーツに触れる機会を提供する。

② 小学校教員研修

体育の授業を通してスポーツ好きな子どもを増やすため、関係機関と連携して、小学校教員を対象に、専門的指導者による研修を実施する。

③ 競技人口の少ない種目の支援

競技人口の少ない種目について、競技団体が行う体験教室やスポーツクラブの立ち上げなどを支援する。

## **(4) 競技力向上のための環境整備**

---

### **(ア) 強化拠点の構築支援**

競技団体が設定する強化拠点地域において、競技団体が地域のスポーツ関係者等と連携し、幼少期から成年期まで年齢の枠を超えて行う強化活動を支援する。

### **(イ) 本県の自然環境を活かしたスポーツ活動への支援**

競技団体が行う高地トレーニングや冬季種目など本県の自然環境を活かした練習会や合宿などの強化活動を支援する。

### **(ウ) ICTを活用した強化活動の支援**

広い県土を持つ本県において、オール長野で競技力向上活動を推進していくため、競技団体が行うICTを活用した強化活動を支援する。

### **(エ) スポーツ医科学関係者と連携した支援体制の整備・サポート活動支援**

#### **① スポーツ医科学関係者によるサポート活動への支援**

スポーツドクター、アスレティックトレーナー、スポーツ栄養士、メンタルアドバイザー、スポーツファーマシスト等のスポーツ医科学の専門家が競技団体と連携して行う、選手へのサポート活動を支援する。

#### **② 「長野県スポーツ医科学ネットワーク」の構築と強化・支援体制の整備**

県内でアスリートの支援に携わっている医科学関係者をネットワークで繋ぎ、既存のスポーツ医科学施設や県の部局連携により、効果的・効率的な強化・支援体制を整備する。

#### **③ 「長野県版アスレティックトレーナー（仮称）」の養成と活動支援**

理学療法士、鍼灸師、柔道整復師等の有資格者で、アスレティックトレーナー活動をサポートすることに賛同いただける者に対し講習会を行い、その受講者を「長野県版アスレティックトレーナー（仮称）」として認定し、選手に対する行き届いたサポート活動を支援する。

### **(オ) 競技用具等の整備**

第82回国スポ正式種目の競技力向上に直結する競技用具等を整備する。

### **(カ) 練習環境の整備と施設の優先利用の働きかけ**

強化が円滑に推進できるよう練習環境を整備するとともに、強化指定選手や団体が優先的に練習施設を利用できるよう、施設所有者等に対する働きかけを行う。

### **(キ) スポーツ保険への加入促進**

指導者や選手が安全に強化活動に取り組めるよう、スポーツ安全保険等の情報を提供する。

## **(ク) 情報収集と分析・発信**

### ① 他県の競技力分析

戦略的な強化対策が展開できるよう、先催県や強豪都道府県が取り組んでいる強化対策事業等の情報を収集・分析するとともに、競技団体等へ情報を提供する。

### ② 最新トレーニング方法等の発信

最新トレーニング方法や練習方法の情報収集を行い、その情報を指導者や選手に発信する。

## **(ケ) 応援機運等の醸成**

### ① ホームページ等による情報発信

本県選手への県民の応援機運を高めるため、対策本部の運営や強化活動の状況をホームページ等により情報発信する。

### ② マスメディアとの連携

テレビ、ラジオ、新聞等のマスメディアとの連携を図り、有望選手や競技団体の強化活動等について、情報発信する機会を増やし、県民の競技スポーツに対する注目や関心を高める。

### 3 各期間における主な取組み

各期間において、次の取組みを総合的かつ計画的に推進していく。

年	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029以降	
回	74	75	76	77	特別	78	79	80	81	82	83以降	
国体開催地	茨城	延期	三重	栃木	鹿児島	佐賀	滋賀	青森	宮崎	長野		
期 間	育成期			充実期			躍進期			定着期		
目 標	天皇杯順位	12位以内			10位以内			8位以内	5位以内	1位	10位以内	
	皇后杯順位	10位以内			9位以内			8位以内	5位以内	1位	10位以内	
(1) 組 織	組織の確立	総合的な推進体制の構築										
	体制の強化・充実	各競技団体への組織マネジメント力強化										
		各競技団体と関係諸団体との連携強化										
目標及び事業案に対する評価	各競技団体への強化計画策定支援及び定期的な事業評価											
(2) 指 導 者	養成・資質向上・確保	指導者の養成および資質向上										
		指導者の確保										
	活用・環境整備	指導者の活用・指導環境整備										
	一貫指導体制の確立	一貫指導体制の確立・充実										
(3) 選 手	ターゲットエイジの発掘・育成	スポーツ体験教室の開催										
		少年種別選手の発掘・育成・強化										
	成年選手の育成強化・確保	成年種別選手の育成・強化・確保										
								強化選手の指定				
								ふるさと選手支援				
(4) 環 境	拠点構築	強化拠点地域の構築・促進・充実										
	サポート体制の構築	ICTを活用した強化活動の支援										
		スポーツ医科学ネットワークの構築によるサポート体制の充実										
		情報収集と分析・発信										
	施設・用具	特殊競技用具等の整備・充実										
練習環境の整備・充実と施設の優先利用												

第82回国民体育大会  
長野県開催

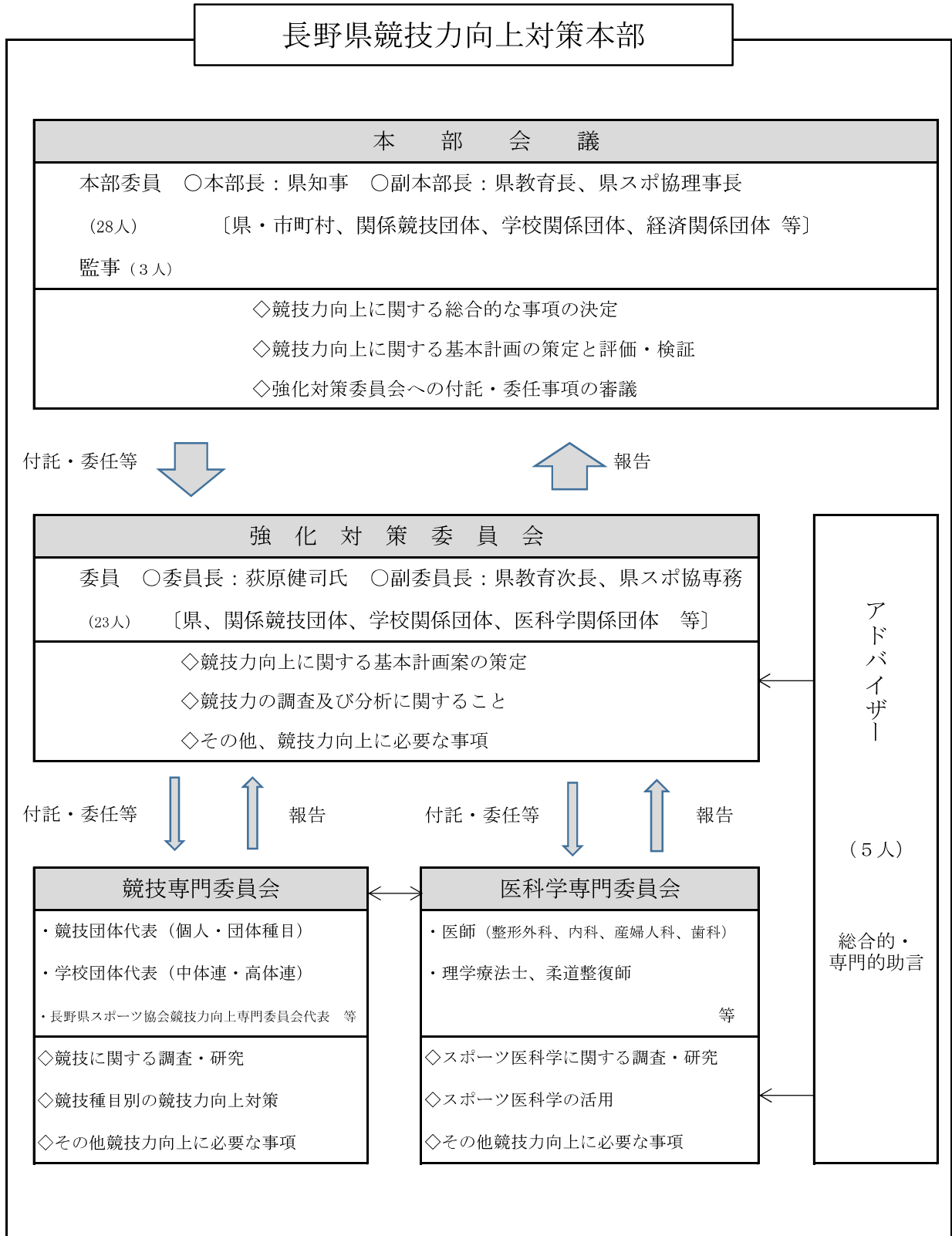


# 「長野県競技力向上対策本部」について

## 1 目的

2028年の第82回国民スポーツ大会に向けた競技力向上を図るとともに、大会終了後も更なる本県スポーツの発展に寄与することを目的に「長野県競技力向上対策本部」を設置する。

## 2 組織



## 3 設置年月日

平成30年 (2018年) 6月6日